特集Ⅰ 台風19号からの復旧・復興にむけて ～本部長メッセージ～

全国農業協同組合連合会福島県本部
県本部長　猪股孝二

10月12日からの台風19号や台風21号に伴う大雨による河川の氾濫等により、県内では多くの方が被害にあわれました。さらに、多くの農地や農畜産物が甚大な被害を受けました。謹んでお見舞い申し上げます。

近年の気象は、我々がこれまでに経験したことのない猛暑・台風・大雨の発生を引き起こしています。そしてこれらに伴う災害は、もはや50年・100年に1回の発生では無く、来年もまた起こりうる災害なのかもしれません。

今回の災害に対しては、全農として国や県、市町村と連携を取りながら、JAと一体となって、農家が災害からの早期復興と希望をもって営農再開ができるような実効性のある支援対策を行っていきます。

厳しい状況の時こそ、協同組合の力で結集できるJAグループです。みんなの力で乗り切って行きましょう。

10月12日に本州に上陸した台風19号は、東日本を中心とする各地に甚大な被害をもたらし、福島県においてもその影響は非常に大きく、約1か月が経過しましたが、いまだ深い傷跡が残っております。

福島県内の農林水産業の被害総額は約633億（※）に上っており、今後も被害額は増える見通しです。

全農福島県本部においても、阿武隈川の氾濫で郡山市田村町金屋地区の地域一帯が浸水し、関連施設が床上浸水し被害が出ております。

随時、応急対策を行っており、完全復旧を目指して作業を進めております。

写真奥：JA ライフクリエイト福島（子会社）
写真右：郡山営農事業所

なお、台風19号による組合員・各JA管内の被害状況と必要な支援対応を的確に実施するため、国や県、市町村との連携を図るとともに、支援策にかかる要領を整備して一日も早い復旧に向けて取り組んでまいります。

※11月13日県のまとめによる。

農業機械センター・農業機械への影響

農業技術センター・分析機器への影響

特集Ⅱ 菌床しいたけイノベーションセンターについて

昨年の10月31日、当県本部は「菌床しいたけイノベーションセンター」を開所し、現在、稼働から1年1ヶ月が経過しました。菌床しいたけイノベーションセンター（以下、しいたけＩＶＣ）は、年間約40万菌床を製造可能な施設であり、生産者が行う菌床作りの省力化を図り供給実現に向け、しいたけＩＶＣにて実証試験栽培を進めてまいりました。昨年からは、管内の生産者2名にご協力いただき、しいたけＩＶＣで製造した菌床を実際に栽培する試験を実施いたしました。その協力もあって、今年度11月より北研607・705、森XＲＩの3種類の注文受付を開始することとなり、2020年1月には本格的に菌床供給を行う予定となっております。

また、今年8月には全農福島しいたけ生産販売協議会でＪＧＡＰ団体認証を取得し、しいたけＩＶＣも生産農場の1つとして認証されました。ＪＧＡＰの基準にもとづいた管理手法を取り入れることで、適切な施設運営にも努めていきます。

しいたけＩＶＣは、パッケージ事業（ＰＳ）とあわせて、これまで以上に生産から販売まで一貫して栽培サポートをしていきます。また、今後はデータ測定器を活用した栽培データの分析や簡易空調ハウスの情報共有を図り、技術的な面でのサポートも行っていけるよう取り組んでまいります。

〈しいたけＩＶＣ事業〉

①高品質・高収量の栽培技術を確立するための実証と技術の普及
②生産者の菌床づくりを省力化するための菌床供給
③菌床しいたけ生産者育成のための栽培実習受け入れ
④施設初期投資を軽減し、安定栽培を行うための簡易空調ハウス賃貸事業

発生室で収穫される前のしいたけ

培養室の棚に並ぶ菌床玉

菌床培養室

培養中の菌床玉